



高崎ユネスコ協会

本協会は青少年育成活動の一環としてユネスコ青少年キャンプを実施しています。目的は諸外国について学習したこととを公表し学び合い国際理解を深めるとともに、豊かな自然の中で仲良く協力し助け合うなど心と平和を育むというユネスコが目指すものを身につけさせることです。今年度は八月五日～七日に倉渕のわらび平キャンプ場で行いました。

市内の小中学生を公募し、小学生二十八名が参加しました。飯盒炊さん、登山、源流探検、キャンプファイヤー等を通して、キャンプ実行委員会の目指した「ユネスコ力」の育成が図られ、二泊三日の生活の中で成長した子供たちを目の当たりにしました。

外国への関心や理解を深め国際平和に貢献する心を育むための国際理解教育の一環として、八月二十一日に国際理解バスを実施しました。市内の小中学生を公募しましたが、大変な人気で多数の応募者から抽選のうえ、三十名の参加者を決定しました。訪問先は新宿区の JICA 地球広場と目黒区のキルギス

共和国大使館です。子供たちは国際理解や国際貢献の大切さを肌で感じたようです。子供たちの感想文を事後報告書として編集し、参加者や関係者に配布し、好評を得ております。

文化活動の一環として、十月二十四日～二十九日の間、高崎シティギャラリーで国際児童画展を開催しました。この事業は市内の小中学校の図工美術主任会の協力を得て実施されました。搬入・展示・作品審査・搬出も学校の先生方にやっていただき、二一九〇点の作品が展示された期間内に四七二二名もの入場者があり、関心の高さが伺えました。なお、入賞者は二月の合同表彰式で表彰される予定です。

(会長 樋口克己)

太田ユネスコ協会

希望に満ちた平成二十七年の新春を迎えることとお慶びを申し上げます。我が太田ユネスコにお世話になり、早や四年の歳月が流れ去りました。

長い歴史あるユネスコの諸先輩から見れば、将に小僧つ子そのもののだと思ひながら日々精進しています。

前回のユネスコ日より引き続きの

執筆となり、どんな内容に焦点を置くのか考えたが、今日は原稿の締切日であり自分のユネスコの原稿が無くては、未提出のユネスコに対して督促のお願いも出来ない。そう思つて先ず太田ユネスコの原稿に着手した次第です。

今、世の中には「検証」とか「改革」という言葉が飛び交っている。時は一刻も止まること無く前進していると考えるなら、昨日と今日は同じではないと言う事でしょうし、ならば、昨日と同じ生き方には前進がないということになる。

その可否についての考えや、こういう事にはならないのか、という考えが極めて重要という事になるのではないかと考えている。

各ユネスコ協会における最大の課題は会員の高齢化ではないかと思う。太田ユネスコ協会も御多分に漏れず高齢化が進んでいる現状にある。人の元気さや年齢は進行したら後戻りは出来ないことを認識して行かなければならないのではないかと考えている。自分自身も傘寿を迎える年齢になり他人事のような事は言えないところだが、活力のあるユネスコ協会に舵を切る時期ではないでしょうか。

太田ユネスコ協会では、大きな事業として毎年「諸外国交換ユネスコ児童生徒作品展」、「太田市近接高校ユネスコ弁論大会」、「国際理解バス」及び「ユネスコ英語キャンプ」を実施している。

いづれの事業も、学校 P.T.A の皆様、太田市立太田商業高等学校及び中学校の英語助手教諭 (A.L.T.) 及び英語キャン

プ時の一般サポーターの皆様を支えられての実施となつている。

内容的にはいづれの事業も好評を博しており、ご協力を戴いている皆様には深く感謝しているところであり、協力なくしては実施できない貴重な事業となつている。

国際バスはどうなんだと思われるでしょうが、この事業だけは副会長と理事二人が力を合わせ毎年立派にこなしているもので、ユネスコ事業の中で唯一自前での実施で若さを如何なく発揮しており、頼もしさを与えてくれている。

「改め変えること、改まり変わる」とことが改革と言われている。太田ユネスコ協会も全員が改革意識を持ち、今日より明日へ向けた前進あるのみの気持ちを大事に精進して行けたら良いと思つている。

伊勢崎ユネスコ協会

当ユネスコ協会の行事は、定期総会を兼ねた春の研修で始まります。今年には、藤岡市のふじの咲く丘、高山社跡（世界遺産への登録前でした）、伊勢塚古墳と高崎市の上野三碑のうち山ノ上の碑と金井沢の碑を見学しました。好天に恵まれ、ふじの花は最盛期を過ぎていましたが、見る事ができました。高山社跡では、藤岡市の文化財保護課の職員が丁寧に説明してくださり、養蚕の普及に高山社が果たした役割をよく理解できました。伊勢塚古墳は、県道から少し入った目立た